

再発見 ふるさと風土記 上新城の伝説 シリーズ

⑤「保多野の謂(いわ)れ」と「五十丁の大ミミズ」

菅江真澄が書き残した保戸野と五十丁の珍説、奇談がある。

保多野は当時「新城保戸野村」だった。およそ100メートルもの大蛇がいたという伝説の村だが、久保田の保戸野とまぎらわしい。

さらに、「ホドツラ」という土芋が採れることから、村の名前になったのだろう。ホドはへっこんで火床に通ずるが、女陰もまた同じである。

はて、どうしたものか」とも記している。



240年近く前、真澄は五十丁で、奇怪な話を聞いている。

天明年半ば頃。五十丁の村が、いまだかつて経験したことのない凄まじい雨風に襲われた。堰は破れ、濁流が轟轟(ごうごう)と暗闇にこだまして、村の人たちは一睡もできないまま朝を迎えた。ようやく暴風雨も収まって、戸外に出てみると、なんと、まるで奥山の丸太のような巨大な生き物が、長々と横たわっている。



それは、長さ八尺(2.64m)、太さ三尺(1m)もある大ミミズで、これが一晩中暴れた夜だったのだ。

このことは、「ふでのまにまに」の中に「大みみず」と題して収録されている。

郷土史研究家 永田 賢之助

上新城のペット物語



vol.5

ポンちゃん

2歳の女の子。人間が大好きで、わんこやにゃんこを見てもまったく興味を示しません。飛んでる鳥や散歩中に出会う人が気になってしょうがないそうです。一日2回のお散歩を元気に動き回り楽しんでいます。

「人が大好きだけど、なぜか、撫でられるのも抱っこされるのも好きじゃないですね。吠えたり噛みついたりはしませんし、番犬には向かないですよ」と義宏さん。ワクチンの注射なんかも嫌がらず、気丈で凛々しく賢いタイプようです。

鈴木さんたちは、令和3年3月に雄和のわんにやびあで出会いました。二人の娘さんとママが一目ぼれし家族に迎えられたそうです。

「おやつや食事を『待て』と言えばしっかりと我慢できるし、食べることにはそんなに欲がないですね」と義宏さん。

女の子のせいかな、娘さんたちとは同等の仲良し友だち関係で、家族ではパパが一番のようです。「家族がお出かけとなると、すぐわかりますね。決まってパパの座椅子に座って留守番をしているんですよ」と妙子さん。

鈴木 義宏さん(パパ)・妙子さん(ママ) (上五十丁)

人、モノ、風景  
上新城の宝物

子ども会の曳山行事

上五十丁の子ども会には、毎年5月のお祭りの頃に開催していた恒例行事がありました。子どもたちが山車を曳いて町内を練り歩くというものです。山車は毎年保護者たちが協力して作り、手作りの人形(金太郎や桃太郎など…)や提灯などで飾りつけをします。私が参加し始めたのは30歳頃からだったと思いますが、人形の背景の絵や看板を担当していました。



子ども会行事の記念写真が飾られている公民館

当日は半纏を着た子どもたちが山車を曳きます。小学校の校庭や神社近くの少し開けた場所で、上新城音頭や花笠音頭を踊りました。お母さんたちも子どもたちに混じって踊っていたのを覚えています。そうしていると近所の人たちがおひねりを持って家から出てきたものでした。子どもたちには最後に駄菓子を持たせていました。大人も子どもも楽しみにしていた行事であったと懐かしく思い出します。



平成4年5月5日撮影  
中嶋さんもこの山車を作った一人

公民館には過去に参加した子どもたちの集合写真を飾っています。一番古い写真は昭和57年のものでした。子どもたちを楽しませたいと一つになって取り組んでいた、町内の大切な歴史のひとつです。

上五十丁町内会会長 中嶋 庄悦



June 3 さとぴあ講座レポート

## 親子でバードウォッチングと巣箱づくり

10時10分。いざスタートしようとしたところで小雨が降り出し、しばしの間、日本野鳥の会秋田県支部の加藤正敏先生から双眼鏡を使うウォッチングのコツを指導していただきました。

ほどなくして無事に雨が止み、松木台の坂道を歩いて少し進んだところで、遠くの小高い木の枝に目視できる鳥を発見! さっそく写真パネルを見ながら加藤先生の解説を聞き、工藤さんのサポートで大きな望遠鏡を覗き込んで、発見したキジバトの様子を観察しました。その後も果樹園の方へ坂道を進み、先生から“野鳥の個性”についての解説を聞きながら森の散策を楽しみました。

加藤先生からは「上新城は昔ながらの自然形態が残っていて、野鳥にとっては恵まれています。果樹園なんかには太いりんごの幹に巣を作ったりして住み着くこともあります」とお話がありました。季節により様々な鳥を観察できる「バードウォッチングの楽しみ方」を学びながら、今回は11種類の野鳥と出会えました。



さとぴあに戻り、大工の大島勝美さんから「巣箱づくり」を習いました。今回作った巣箱は高さ35cmの片屋根型。自宅の庭先で木の幹などに取り付けることで、訪れる野鳥を身近に観察できるようになります。小鳥の入口となる穴のサイズは野鳥の種類によって異なるため、シジュウカラ用の28mmと、スズメ用の30mmの2種類から選びました。

大島先生は皆さんを見守りながら、必要な場面では子どもたちの組み立て作業を手助けしてくれました。自分で作った巣箱を見る子供達はどこか誇らしげな笑顔で、親子で作る楽しい巣箱づくりの時間も終了となりました。秋から冬へかけての子育てハウスを探す小鳥に気に入られるか、とても気になりますね!

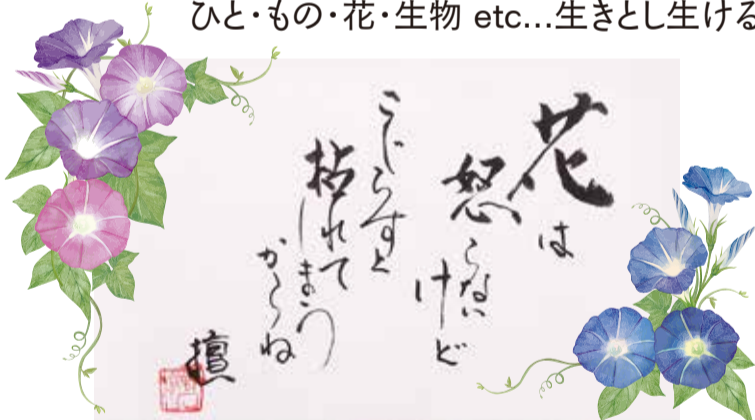
### 参加者の言葉

「とっても楽しかったよ〜!」  
「好きな鳥はスズメです。カラスはあんまり…」  
「親子で楽しめる、とっても良い体験ですね」

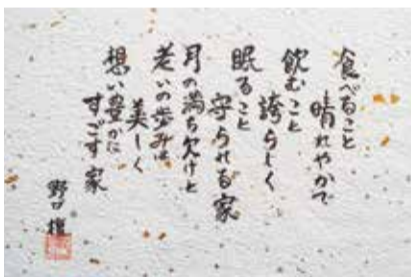


## 野口壇「つぶやきの詩」展 ~愛しき者たち~

ひと・もの・花・生物 etc...生きとし生けるものたちへの賛歌



死を忘れず恐れず、命続く限り愛しいものたちを賞賛し、後悔の無い人生を送りたいのです。日々の暮らしで感じることを詩に表現しました。



日時 令和5年 7月17日(月)から8月19日(土) 10:00~18:00

場所 さとぴあ 玄関展示ホール

自由観覧

## 三浦小百合「SAKU II」~花は歌い、波は踊る~



自分が生まれ 生きて行く「秋田」。身の周りにいつもある風景・自然から題材を得て、着物の帯を下地にビーズやレース、布など素材の魅力を活かしたタペストリーなどで表現しました。

日時 令和5年 7月15日(土)まで 10:00~18:00

場所 さとぴあ 玄関展示ホール

自由観覧

## 7月の講座一覧

7/5 水 北前船と秋田 vol.2「北前船と秋田の舟運」

7/6 木 毛糸の草木染めプロジェクト 第3回「羊毛を染める」

7/13 木 梅漬けと笹巻きづくり

7/22 土 ジャガイモ収穫体験

7/23 日 親子で体験 縄文講座とミニ土器づくり

7/28 金 南仏プロヴァンスの家庭料理づくり

7/29 土 親子で体験 岩見川の生き物観察会(昼食付)

7/30 日 絵ごころ表現教室 第3回「野山を彩る植物スケッチ」

「上新城さとぴあだより・ふるさと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。次号の配布は、9月7日・8日の予定です。地区の皆さんにお知らせしたい情報がありましたら、「さとぴあ」までお寄せください。

